

平成26年度 事業報告書

(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

公益財団法人つなぐいのち基金

1. 事業内容（公益目的事業1のみ）

■ 助成事業について

① 助成について

平成26年度は公益目的事業の概要に則り、公募による募集を実施することができました。

幼児期の母親に対するケアによる支援、義務教育期に親の養育を受けることができない子どもへの支援、教育格差を是正する高等教育への学力向上支援との段階という平成25年度助成に加え、平成26年度は大学進学の奨学金支援を行う団体に助成することで一連のセーフティネットのモデルが完遂することができました。また、経済的ハンデだけでなく障害というハンデを持つ子どもたちへの支援として体幹トレーニングという形で実現しようとしている団体への助成、高齢者を含む多世代間の交流・相互支援を背景とした放課後学習支援・居場所事業を実施する団体への助成で、多様な社会的ハンディキャップにさいなまれている子どもたちへの支援を拡げることができました。

但し、財源規模が計画より大幅に低位となったため、助成総額も小規模にして実施いたしました。

② 公募による助成先の「募集概要」

1.目的

本事業は、児童養護施設、又は、児童養護施設に入居する児童や社会的ハンディキャップを抱える恵まれない子供たちを支援する団体（以下、「児童支援団体」とする。）に助成を行うことにより、児童の心身の健全な育成に貢献することを目的としており、この目的に合致した、優れた活動及び、これを推進する団体機関を支援するための助成先募集を行います。

2.助成内容

(1) 平成27年度の助成の概要

- ・助成金 児童福祉に目的とした事業、活動、プロジェクト等に対する助成金の支給
- ・交流助成 児童福祉に関わる法人、団体、施設へのサービスや物品による助成

(2) 募集数

- ・助成金 総額40万円（助成金20万円 2団体を目安として想定）
- ・交流助成 各サービス1施設(団体)

(3) 助成の対象となる時期

2014年4月から2015年3月に至る期間に実施されるもの

(4) 募集対象場所

- ・助成金 主催者や出演者等の国籍等は問わないが、実施場所は日本国内を中心とするもの
- ・交流助成 お伺いできる場所は、本年度は首都圏1都3県（埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県）

3.募集等の日程

(1) 募集期間

2015年2月2日(月)～2月27日（交流助成については7月31日、あで）

(2) 選考結果の通知

2014年3月中上旬 ※ 助成金の交付は平成27年3月下旬を予定しています

4.選考方法

有識者、学識経験者、専門家による当財団の選考委員会で厳正に審査し、その答申に基づいて理事会で決定します。

③ 公募の掲示方法

当財団ホームページ、Google 検索によるリスティング広告(NPO 支援を利用し無料)の運用、日本財団運営情報サイト「CANPAN」の「助成制度一覧」に掲載、等による公示を実施。

④ 選考方法について

「助成事業実施規程」に則り、助成申請のあった団体について、当財団事務局の調査選考担当チームによる調査および基礎選考を実施し、つなぐいのち基金選考委員会に報告しました。選考委員のよる選考の実施、および選考結果の承認を経た後、助成対象団体に助成決定通知書を送付し、助成内容についての了承を取得後の助成金の支払いを行いました。

⑤ 応募および選考状況について

フェーズ	該当団体数	備考
助成申請 エントリー	14 団体	全エントリー数
助成要件 充足団体	8 団体	書類不足、助成対象不適各団体を除く
調査結果による候補団体	6 団体	財団理念に相応しいか実績等で基礎選考
選考委員会による助成決定団体	3 団体	選考基準に照らし、本年度助成先を選考

⑥ 選考結果

<平成 26 年度募集（事業対象は平成 27 年度）>

1. 認定 NPO 法人ブリッジフォースマイル（20万円） <http://www.b4s.jp/> <http://www.canayell.jp/>
児童養護施設退所時の就学支援・奨学金プログラム「カナエール」事業へのお助成。
2. 特定非営利活動法人 風のやすみば（10万円） <http://kazenoyasumiba.wix.com/kazenoyasumiba>
地域・小学校と連携した母子・父子家庭児童の放課後学習支援事業に関して非営利団体へ助成。
3. 特定非営利活動法人 きらきら蛙（10万円） <http://kirakirakaeru.jimdo.com/>
障害児向けの体幹トレーニングを通した健全育成支援事業に関して非営利団体へ助成

平成25年度の助成は、幼児期の母親に対するケアによる支援、義務教育期に親の養育を受けることができない子どもへの支援、教育格差を是正する高等教育への学力向上支援との段階に加え、平成26年度は大学進学への奨学金支援を行う団体に助成することで一連のセーフティネットのモデルが完遂することができました。

また、経済的ハンデだけでなく障害というハンデを持つ子どもたちへの支援として体幹トレーニングという形で実現しようとしている団体への助成、高齢者を含む多世代間の交流・相互支援を背景とした放課後学習支援・居場所事業を実施する団体への助成で、多様な社会的ハンディキャップにさいなまれている子どもたちへの支援を拡げることができました。

■ 助成事業の財源について

平成25年度の収入は、賛助会員と個人寄付のみでしたが、平成26年度はあらたに、「マンスリーサポート制度」(個人月額継続寄付)、「コーズリレーテッドマーケティングによる寄付」、「クリック募金による寄付」とファウンドレイジングは多様なメニューとなってまいりました。

しかしながら、公益移行初年度募集(平成26年3月～平成26年8月申込)の賛助会員の初年度会費の有効期間を平成27年12月末までとした関係で、会費収入は新規のみでした。また、新たなファウンドレイジングメニューによる収入も少額で、全体として計画を大幅にショートすることとなりました。

① 賛助会員の募集及び会費収入の確保

会費収入の確保については、プロジェクトのオフィシャルサポート企業からも営業支援をいただき、「全国優良葬儀社名鑑」に記載された葬儀社のうち、関東、関西、中部の大都市圏にある葬儀社を中心に会員募集を行うことになっておりましたが、オフィシャルサポート企業の経営上の事情により募集することができませんでした。供養事業者賛助会員は、平成26年3月に募集、4月以降に申込・入金となった22社でした。一般企業等の会員は、代表理事が基金の理念に賛同いただき、会員になっていただきました。

平成26年度として、新規に30社に賛助会員となっていただきました。

会員種別	獲得数	会費収入目標額
供養事業者 賛助会員	新規 22 社	年会費 12,000 円 × 22 社 = 264,000 円
一般企業等 賛助会員	新規 8 社	年会費 12,000 円 × 8 社 = 96,000 円

② 寄附つなぐ

マンスリーサポーター(個人月額継続寄付)による寄附金

月額 1,000 円 × 2 名、月額 100 円 × 1 名

③ 寄附いのち

・社会貢献消費寄付

福岡の企業が障害者の方の雇用によって製造している「自然食カレー」を当財団への寄付を前提に販売していただくコーズリレーテッドマーケティングを平成26年12月より開始しています。

協賛企業は販売するたびに1個あたり5～10円を当財団へ寄付いただく流れとなっています。

初年度は、合計2,000円の寄付をいただくことができました。

・クリック募金サイトからの寄付 (平成27年5月から入金開始)

クリック数と抽選によるポイントにより、ボランティア等の関係者を中心に月額 3000 円程度が期待できる。

・個人寄付


300,000 円 (10 万円を財団基盤整備に利用との寄付用途に関する指示あり)を寄付いただきました。

尚、寄付みらいについては寄付獲得をすることができませんでした。

■ 助成事業のための啓蒙活動について

① 紙媒体資料の作成

公益財団法人として下記の紙媒体資料を作成させていただきました。

財団案内パンフ (A4 4つ折り)	財団封筒 (定型)(定型外 A4)	
賛助会員パンフ (A4 4つ折り)	寄附みらい(A)(B) パンフ	
財団ポスター (A3)(A2)	財団ロゴシール、訂正シール	

(平成27年度に、申込書やデータブックなどの啓蒙資料を作成する予定です。)

② ホームページの全面リニューアル

旧ホームページは、公益移行前に制作したものでしたので、全面リニューアルを実施いたしました。



Web 関連の知識がないスタッフでも更新作業が可能ないように、WordPress による制作としました。

当初、クラウドソーシングでサイト制作をコンペで依頼しましたが、制作受託者の体調不良により、結果としてほとんどを内製いたしました。

(制作費の約 2/3 はキャンセル返金)

<http://tsunagu-inochi.org/>

③ 助成団体への取材レポート

多くのご支援者の方からお預かりした会費・寄付金が、助成先の事業で有効に利用されているかの確認、そして支援者様へのご報告を兼ねて、助成先団体への取材を実施しております。

各助成事業の社会課題に対する実施状況、どのように役に立っているかを生き活きとお伝えすることを意図しております。

平成26年度の助成先1団体から事業期間の延長の申請を受領しています。他の2団体は確認・取材を実施済みです。(サイトへのアップは1団体未了)



http://tsunagu-inochi.org/portfolio/kidsdoor_suginami/

④ 人生の先輩からのメッセージ&対談の実施

代表理事の鶴居由記衣がさまざまな縁を通じて知己をいただいた方々から、「次代を担う子どもたち」に向けて人生の先輩としての熱く暖かいメッセージ！をいただいております。

人口減少、超高齢会社という世界で初のチャレンジの中心を担っていかねばならない子どもたちへの応援と示唆に満ちた内容となっています。

同時に、このメッセージは、これからの日本を憂いてやまない先輩たちの同世代の方への子どもたちへの支援の呼びかけでもあります。



「子供の未来応援国民運動」発起人 草間吉夫氏

⑤ 子どもの支援をつなぐ「すぎなみフューチャーセンター」の開催

平成26年度の助成先でもある杉並区で活動する子ども支援に携わる団体をつなぐ「すぎなみフューチャーセンター」(基調講演、パネルディスカッション、ダイアログ、交流会)を開催いたしました。



基調講演は文部科学省 大谷参事官を迎え、フューチャーセッションでは、登壇者と参加者が 4~5 名のテーブルで一緒に対話をするという数少ないスタイルでワールドカフェ3セットを行いました。

地域の子ども支援のキーマン 28 名の方にご参加いただき、つながり・協働することによる包括的な支援の相乗効果や課題などを共有する貴重な機会とすることができました。

<http://tsunagu-inochi.org/portfolio/150427futurecenter/>

⑥ 新たな啓蒙プロジェクトの準備を開始

平成27年度の本格始動に向けた準備を開始いたしました。

課題先進国である日本の将来のためには、私たち一人一人の知識、意識、選択の変化による社会的な効率の向上が必要であると認識しております。

公益法人として一助となるべく、そのための情報提供、多世代間交流の推進などの啓蒙のためのプロジェクトをスタートします。

Link-age Co-Labo Project

Linkage & Intergenerational exchange Collaboration & Common Laboratory

社会課題は複雑系と言われ絡み合った問題を一人一人が、知って、考えて、そして、「つなぐ」ことでの包括的な対応策により課題解決と社会的な効率性アップをめざします

Project の3つの柱

社会貢献消費の推進

コースリレーテッド・マーケティング

社会課題の啓蒙とコミュニティの形成

これからのつながり協働(共同)研究室

多世代間交流と協働・交流の推進

シニアバンク制度
ピックプラザー制度

2. 前年度の助成先および事業成果について

■ 前年度の助成実績

① 平成 26 年度助成実績

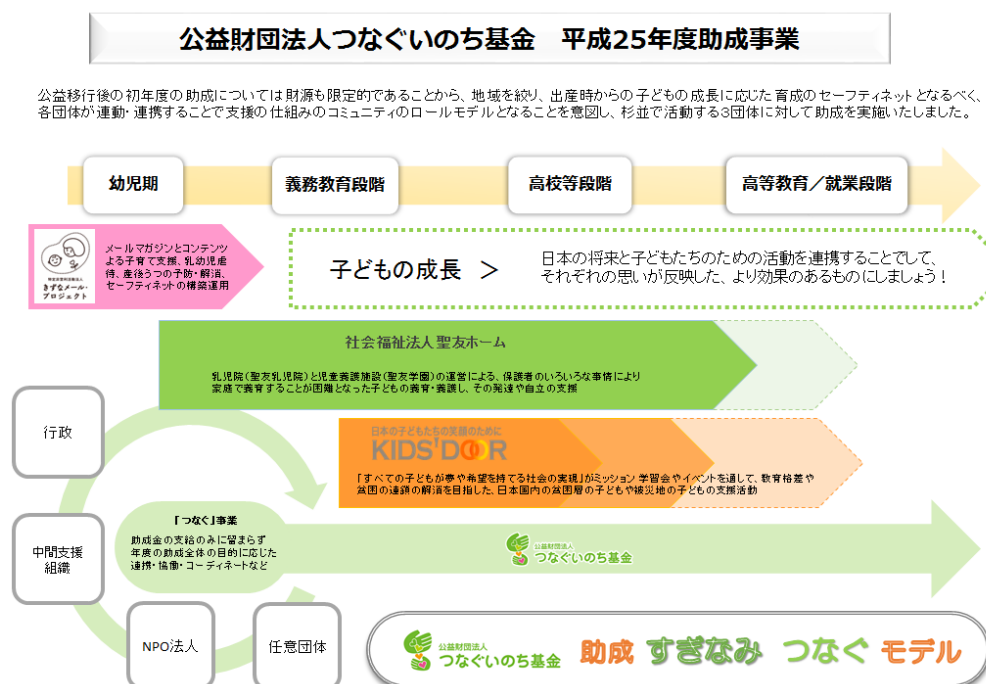
事務局担当者の調査に基づいた推薦による選定という方法で、1 団体に対して 20 万円とし、3 団体に対して、助成を実施した。

公益財団として助成額が限定的であることもあり、杉並エリアにおいてタイプの異なる活動を行う3団体の連携による地域コミュニティを通じた児童福祉を模索するという試みとしての助成でもある。

地域を絞らせていただくことで、出産時からの子どもの成長に応じた育成のセーフティネットとして、支援の仕組みのコミュニティのロールモデルとなることを意図し、児童養護・福祉・教育などタイプの異なる方法論で杉並エリアにて活動を行う3 団体が運動・連携するための助成を実施いたしました。

② 平成 26 年度 助成先団体

1. 社会福祉法人 聖友ホーム <http://www.seiyuhomu.or.jp/home-top.html>
児童養護施設の地域サポーターの育成・連携・活用モデルケースの基盤づくりプロジェクト活動費。
2. 非営利活動法人きずなメール・プロジェクト <http://www.kizunamail.com/>
「孤育て」を予防する「きずなメール」の普及・啓発事業費。
3. 特定非営利活動法人キッズドア <http://www.kidsdoor.net/>
教育格差解消を目指す[ガクボラ] 貧困世帯中学生対象[タダゼミ]プロジェクトのすぎなみ教室活動費。



■ 助成事業の進捗状況について

平成26年度の助成先である、杉並エリアにおいてタイプの異なる活動を行う3団体は、当財団からの助成という機会がなければ相互に人や活動についてあまり知らない関係でした。しかし、本機会によりそれぞれの事業についてはもちろんですが、連携がスタートすることとなりました。

① 助成事業の成果について

1. 社会福祉法人 聖友ホーム

「地域のつながりサポーター」とい企画と「寄付を募るしくみの構築」は概ね出来上がっていますが、地元でのヒアリング不足、サイト制作会社のスケジュール調整もあり、事業期間を延長し平成27年度中に事業の完遂させる予定。(地域におけるフリーマーケット出展は成果を上げています)。

2. 非営利活動法人きずなメール・プロジェクト

「孤育て」を予防する「きずなメール」の認知向上・啓発・普及提案活動は大いに有効に機能しており、平成26年度中に OEM という形態も含め多くの地方自治体・医療機関などで導入されました。(当該年度における最終の確定数値は5月末に報告をいただく予定です)

3. 特定非営利活動法人キッズドア

教育格差解消を目指す[ガクボラ] 貧困世帯中学生対象[タダゼミ]プロジェクトの杉並教室運営に有効に活用いただきました。タダゼミ杉並教室で都立高校を受験した中学3年生6名全員が合格という素晴らしい結果となりました。(推薦含む)

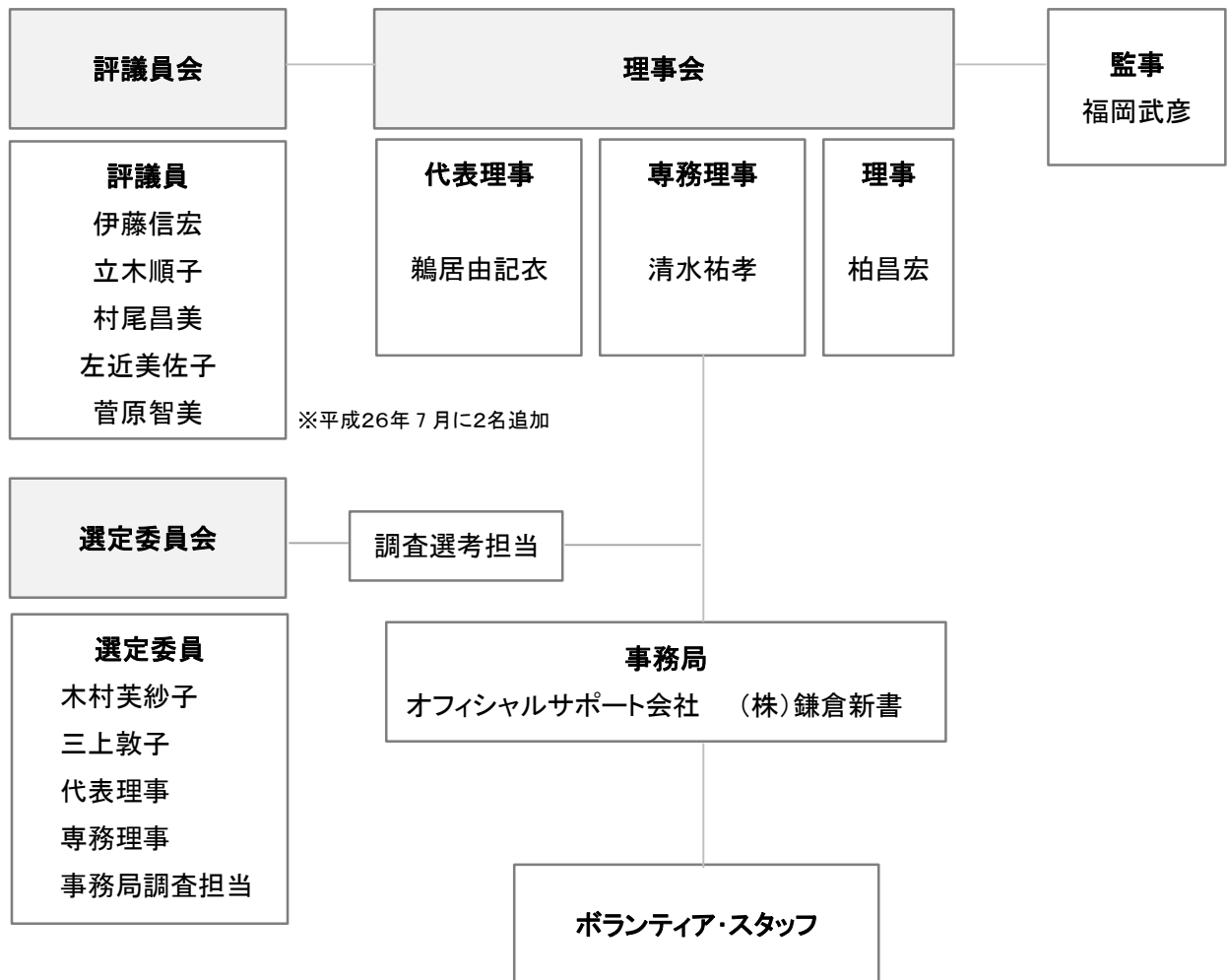
② 助成先事業報告会



「助成事業のための啓蒙活動について」でご報告している、子どもの支援をつなぐ「すぎなみフューチャーセンター」は助成先団体の事業報告会も兼ねておりました。パネルディスカッションという形式の中で、団体の紹介、事業の成果などを報告いただきました。

3. 組織体制

① 平成26年度の運営組織体制



② ボランティアスタッフの拡充

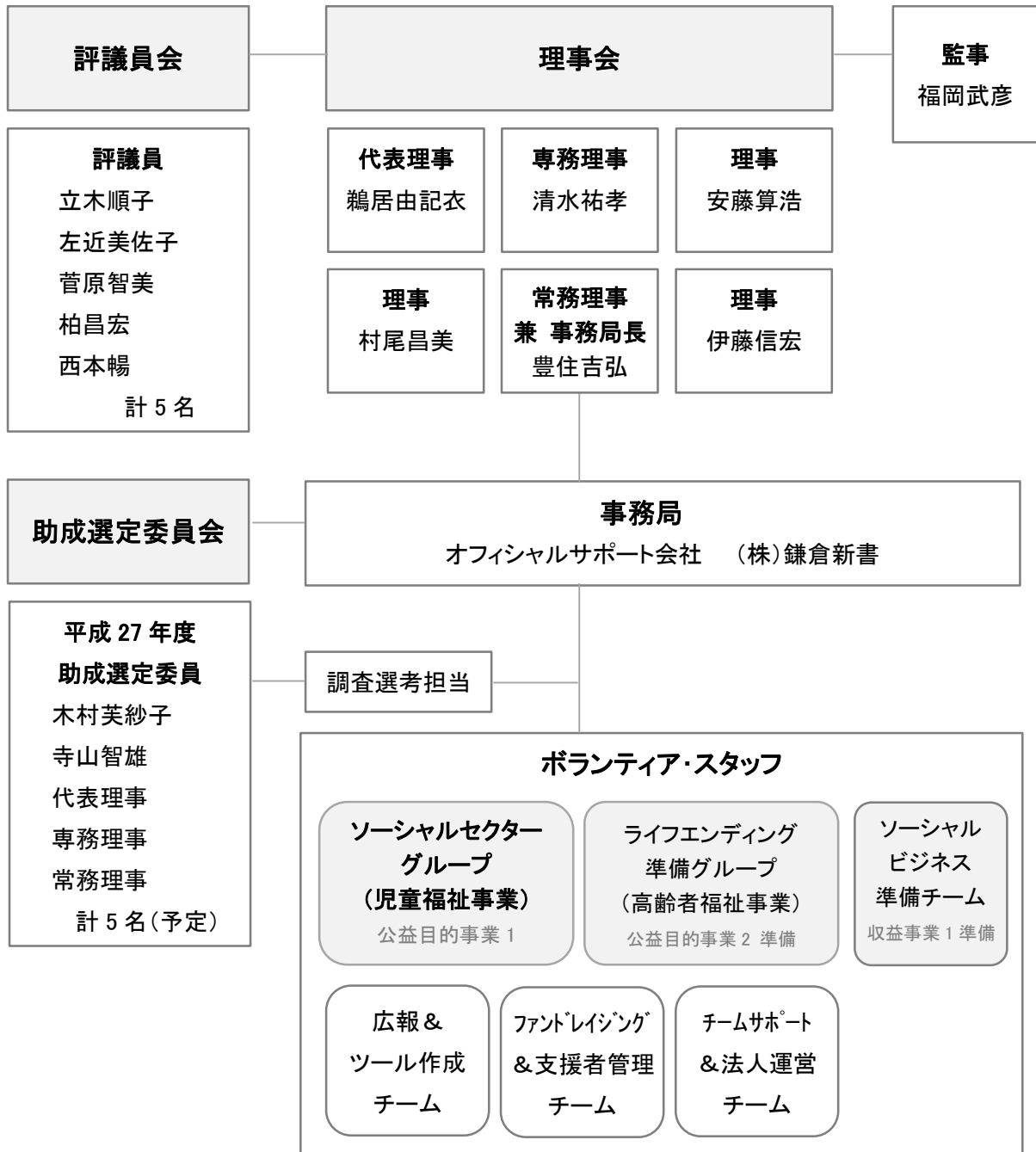
平成26年7月～9月に主に無料のボランティア募集サイトを活用し、新たなボランティアスタッフが7名参加してくれることとなりました。取材や調査、ファンドレイジングなどそれぞれ自分に合ったスタイルで当財団の運営をサポートしてくれております。

(現在は、内1名が新社会人として、5名の学生が就職活動で頑張っている最中で、それぞれの目標を達成次第に再度サポートしてくれる予定です。)

③ 組織運営体制の拡充

平成27年度は「変更認定申請」を行い、公益目的事業2と収益事業1の準備を開始していく予定です。認定いただき次第、事業を開始するため運営組織体制の強化を図るべく、理事を3名の追加し、理事6名(内、代表理事1名、専務理事1名、常勤の常務理事1名含む)、評議員5名という体制といたしました。(新体制の移行は平成27年5月1日より)

④ 平成27年度の新運営組織体制



(平成 27 年 5 月 1 日からの新体制に移行しております)

以上